

## 1. はじめに

一般社団法人あいあいネットは、認定 NPO 法人共存の森ネットワークと協働し、2012 年からインドネシアの高校生を対象に、「聞き書き」を活かした環境教育プログラムの創出に取り組んできた。本事業は、これまでの取り組みと成果を踏まえ、インドネシアの高校、政府機関、大学、NGO などとの連携・協働をさらに強化することで、「聞き書き」手法を活かした環境教育プログラムがインドネシアで自立的、発展的に実践される仕組みの構築を目的としている。平成 31 年度までの 3 年間の取り組みを想定し、初年度となる今年度は、以下の活動を柱として計画・実施した。なお、活動計画変更願を通じ、今年度の活動を 2018 年 5 月 20 日まで延長申請し、2017 年度聞き書き作品集の印刷完了までを今年度の活動とした。

- 1) 複数地域の高校生を対象とした聞き書き研修の実施(2017 年 7 月、於：ボゴール)
- 2) 関連政府機関との関係構築
- 3) 聞き書きインドネシア実行委員会の組織化
- 4) 聞き書きコンテストの実施(2017 年 12 月)
- 5) 成果発表会・聞き書き研修の開催(2018 年 2 月、於：パランカラヤ)
- 6) ゴロンタロ国立大学との連携協議(2018 年 3 月)
- 7) 2017 年度聞き書き作品集の出版

本報告書では、2017 年 5 月末までの取り組みを報告し、今後の課題を整理する。なお、今年度の活動は、りそなアジア・オセアニア財団の助成に加え、NPO 共存の森ネットワークが得ている地球環境基金の助成金をもとに進めた。

## 2. 活動状況

### (1) 聞き書き研修の実施

2017 年 7 月 24 日(月)から 25 日(火)の二日間、ジャワ島のボゴール農業大学ダルマガ・キャンパスにて、聞き書き研修を実施した。研修には、中スラウェシ州から生徒 10 名・引率教員ら 5 名、中カリマンタン州パランカラヤ市から生徒 10 名・引率教員ら 5 名、ボゴールのコルニタ高校から生徒 25 名・教員 5 名の他、「聞き書き」研修の元参加者、「聞き書き」に関心を持った政府・NGO・教育関係者らを含む計 80 名が参加した(表 1)。パランカラヤ市副市長、タナ・トラジャ県開発計画局長・北トラジャ県教育局長らは、それぞれカリマンタン島、スラウェシ島から各地方政府の予算を使つての参加であった。

表 1: 2017 年聞き書き研修参加者

生徒 (計 45 名)	【中スラウェシ州】	【中カリマンタン州】	【西ジャワ州】
	中バナワ第一高校 2 名	パランカラヤ第一高校 2 名	コルニタ高校 25 名
	バナワ第一高校 2 名	パランカラヤ第二高校 2 名	
	バル第三高校 2 名	パランカラヤ第三高校 1 名	
	バル第五高校 2 名	パランカラヤ第四高校 3 名	
	中スラウェシ基督教高校 2 名	パランカラヤ第五高校 2 名	

引率教員	5名	5名	5名
政府関係	パランカラヤ市副市長、教育局長、ボゴール県教育局、 タナ・トラジャ県開発計画局長、北トラジャ県教育局長、森林省研修所、他		
NGO・大学等	NGO Sekolah Alam(自然学校)、NGO Halaman Kampung (ふるさと)、NGO INSIST、 共存の森ネットワーク、あいあいネット、ボゴール農業大学関係者、他		

研修では、1) 日本での「聞き書き甲子園」の取り組みの紹介、2) インドネシアでのこれまでの「聞き書き」の取り組みの紹介に続き、3) 「聞き書き」研修を実施した。全体の司会、2)と 3)のセッションはすべて、コルニタ高校を中心に、これまでに聞き書き研修に参加した生徒らが企画・担当した(表2)。

表2：聞き書き研修 (於：ボゴール農業大学ダルマガ・キャンパス)

月日	主な活動
7/23(日)	パル、パランカラヤから生徒がボゴールに集合。 コルニタ高校生徒を中心に研修の準備
7/24(月)	午前 開会のあいさつ(コルニタ高校校長 Ir.Tri Heru Widarto) 日本の「聞き書き甲子園」の取組紹介(吉野奈保子・島上宗子) ボゴールでの「聞き書き」の取組紹介(コルニタ高校生徒 Futri) 中スラウェシでの「聞き書き」の取組紹介(バナワ高校生徒 Nabillah) 聞き書きワークショップ(吉野奈保子・島上宗子・Futri・Denny) (1) 名人のプロフィールから質問を考える (2) インタビューの構成を考える (3) インタビュー実践 午後 (4) インタビューの録音を書き起こす (5) 聞き書き作品の構成を考える 16:00 一日目研修 終了
7/25(火)	午前 (6) 書き起こした文章を整理する (7) タイトル、見出し・小見出しをつける (8) 成果物の発表・共有 講評(島上宗子・ボゴール農業大学講師 Soeryo Adiwibowo、Zaenal Abidin) 11:30 文化交流 12:00 閉会

## (2) 関連政府機関との関係構築

「聞き書き」プログラムがインドネシアで自立的に展開する仕組みの構築に向け、関連政府機関の理解とサポートを得るため、森林・環境省と教育文化省を訪ねた(7月25日、7月26日)。「聞き書き」の趣旨とアプローチに理解と賛同を示した Soeryo Adiwibowo 氏(ボゴール農業大学講師、森林・環境大臣アドバイザー)の紹介で、Siti Nurbaya 森林・環境大臣を訪ね、森林・環境省内の関連局長官らと「聞き書き」手法を活かしたプログラムの展開可能性を話し合った。森林・環境省人材育成普及庁の長官 Helmi Basalamah 氏と、特に林業高校でのプログラム展開について引き続き協議することとなった。

教育文化省系列では、インドネシアで「聞き書き」をともに進めてきた NGO 関係者の紹介で、文化局長官である Hilmar Farid 氏および文化局内の関連部局長らと話し合いを持った。文化局内では、地方文化・伝統文化の継承を目的とした青年育成プログラム等を実施しており、「聞き書き」プログラムとの連携の可能性が話し合われた。学校教育を統括するのは、教育局であることから、教育局への橋渡しについても協力を依頼した。

両省庁関係者とも、「聞き書き」の趣旨とアプローチには興味と理解を示し、協力の可能性を引き続き議論することとなった。各省との具体的な連携の糸口を見いだし、インドネシアのニーズと既存のリソースに即した具体的なプログラムとしてとりまとめていくことが課題となった。

### (3) 聞き書きインドネシア実行委員会の組織化

2012 年からインドネシアで「聞き書き」プログラムを実施するにあたっては、ボゴール農業大学付属コルニタ高校、パルの NGO プダティと連携してきた。今年度から中カリマンタン州パラカラヤ市政府との連携も加わった。森林・環境省、教育文化省と関連政府機関と連絡をとりあい、インドネシアで自立的なプログラム実施体制を構築していくためには、インドネシア側で事務局となる組織が不可欠である。その第一歩として、これまですでに協力してきた NGO プダティ、コルニタ高校関係者、ボゴール農業大学関係者に加え、ジョグジャカルタを拠点に教育・研修・出版等の事業を展開している NGO INSIST、若者を対象とした活動を展開する NGO Kampung Halaman(インドネシア語でふるさとの意)とも協力の可能性を話し合い、聞き書きインドネシア実行委員会の組織化を進めている。

2017 年 10 月と 2018 年 3 月に、ジャカルタにて実行委員会の主だったメンバーとプログラムの方向性と自立的・継続的な実施運営体制に関する話し合いを行った。

### (4) 聞き書きコンテストの実施(2017 年 12 月)

2017 年 7 月の研修参加者らは、それぞれの地域で聞き書きを行い、11 月 30 日を締切として集まった聞き書き計 25 作品(パラカラヤ 10、中スラウェシ 8、ボゴール 7)を対象として、聞き書きコンテストを実施した。審査チームによる審査の後、金賞、銀賞、銅賞、努力賞を選定した。優秀な作品をまとめた生徒は、2017 年 2 月にパラカラヤ市にて開催した成果発表会に招聘し、成果報告と賞状授与を行った。

### (5) 成果発表会・聞き書き研修の開催(2018 年 2 月、於：パラカラヤ)

2016 年 7 月にパラカラヤ市政府を訪問し、パラカラヤ市からの高校生の研修への参加と、成果発表会の開催における協力への内諾を得ており、その方向で今年度のプログラムを進めた。2017 年 7 月のボゴールでの研修には、パラカラヤ市副市長が出席し、2 月の成果発表会の開催について確認があった。

協議の結果、2 月の成果発表会では成果発表会に続いて、パラカラヤ市内の高校生 25

名を対象とした聞き書き研修も実施することとなった。成果発表会には、高校生の他、地元高校の教員、政府関係部局職員、聞き書き研修に関心を持ったゴロンタロ国立大学教員など、約 80 名が参加した。パランカラヤ市政府は、成果発表会・研修の会場費・市内交通費・プログラム中の食費等約 100 万円を負担し、日本側がパランカラヤ市外からの参加者・実行委員会の交通費・謝礼等を負担した。研修のファシリテーターは、ポゴール、パル、パランカラヤの聞き書き研修参加学生らが担った。

表 3：聞き書き成果発表会・研修（於：パランカラヤ市長公邸）

月日	主な活動
2/3 (土)	パル、ポゴールなどから関係者集合 会場準備・打ち合わせ 19:00- パランカラヤ副市長による歓迎夕食会（副市長公邸）
2/4 (日)	8:00- 聞き書き成果発表会 歓迎の踊り 開会のあいさつ（パランカラヤ市・副市長、島上宗子） 日本の「聞き書き甲子園」の取組紹介（関友美・島上宗子） 聞き書きポスター展示の説明 休憩・ポスター投票 聞き書きコンテスト表彰式 記念写真 昼食 13:00- 聞き書き研修（Futri、Diah、聞き書き卒業生） 聞き書きの手法の説明の後、グループにわかれて実践練習 (1) 名人のプロフィールから質問を考える (2) インタビューの構成を考える (3) インタビュー実践 (4) インタビューの録音を書き起こす 16:00 一日目研修 終了
2/5 (月)	8:00- (5) 書き起こした文章を整理する (6) 文章の構成を考える (7) タイトル、見出し・小見出しをつける (8) 成果物の発表・共有 講評（島上宗子、Zaenal Abidin、Erwin Laudjeng、Miqdad） 11:30- 聞き書き作品提出に関する説明 記念撮影 12:00 閉会 昼食 13:30-16:00 フィールドトリップ（川を下り、泥炭湿地の状況を学ぶ）
2/6 (火)	午前中 市内の高校訪問。 中カリマンタン州教育局・副局長と今後の連携可能性についての協議 午後 ジャカルタへ移動

2017 年から、高校の管轄が県・市レベルから、州レベルへと変更になったことから、成

果報告会・研修の後、中カリマンタン州教育局を訪ね、副局長と今後の連携の可能性について協議した。

(6) ゴロンタロ国立大学との連携協議と聞き書き説明会の実施(2018年3月26-31日)

スラウェシ島ゴロンタロ州のゴロンタロ国立大学教員が聞き書き研修に関心を持ち、2018年2月のパランカラヤでの研修を視察した。この視察をうけ、ゴロンタロ国立大学社会貢献・研究機構が主導する形で、2018年3月、ゴロンタロ州内の25の高校の教員を対象として、聞き書きに関する説明会が開催された。島上がゴロンタロを訪問し、インドネシアでの聞き書きの取組について説明した。

ゴロンタロ国立大学との協議の結果、2018年7月にゴロンタロにて聞き書き研修を共同開催する方向で準備をすすめることとなった。

(7) 2017年度聞き書き作品集の出版

2017年7月の研修に参加し、聞き書きコンテストに作品を提出した25名の生徒の作品をとりまとめ、作品集としてインドネシアのINSIST Pressより出版した。

### 3. 今年度の取組の成果と今後に向けた課題

以上のように、今年度はボゴールのコレニタ高校に加え、カリマンタンのパランカラヤ市政府、スラウェシのゴロンタロ国立大学と連携する形で聞き書き研修・成果発表会・説明会を実施することができた。いずれも、各連携機関が予算の大部分を負担する形で連携できたことは、自立的な仕組み構築に向け、大きな成果といえる。また、聞き書き研修の卒業生たちが研修でファシリテーターを担い、ネットワークが形成されつつある。これらの連携やネットワークをさらに強化・充実化していくためにも、インドネシア側での事務局体制の構築が喫緊の課題である。現在の中心メンバーと協議をすすめており、来年度には事務局を担う組織設立をめざしている。

「聞き書き」の輪の広がり、これまでの取り組みが成果をあげ、インドネシアのニーズにマッチしていることの表れと考えられる。こうした成果をより明確化させるためにも、「聞き書き」が生徒たちの環境意識や行動をいかに変えているのか、評価・把握する手法を検討し、実施したい。また、研修に参加した生徒たちが聞き書きを通じてえた学びを具体的な行動につなげていけるような場づくり・仕掛けづくりも来年度に向けた課題である。